

# 大正10年頃の

## 一宮の牛市

写真提供・塩山 剛さん（西今町）

写真は一宮の市場（小字）で開かれていた牛市の様子です。牛を連れた人の鳥打帽姿が、当時の流行を伝えています。

『津山松平藩日記』によると、美作一宮の牛市は4月の午の日から5月4日まで開かれ、牛馬だけでなく衣料を始め日常百貨の売人も雲集しました。また、狂言や猿回しの見せ物など娯楽も興行され、大勢の人が集まりました。旅館や飲食店も活況を呈



し、臨時の銀札場（両替所）も置かれました。江戸時代、牛は農業に欠かせない大事なものであり、その肉を食べることは禁止されていました。しかし、一説によると博労（牛馬商人）に限って「お目こぼし」が認められ、津山藩と彦根藩が「養生食」の本場だったようです。このことが、今のホルモンうどんブームにつながったのでしょうか。昭和になると発動機（エンジン）が農耕具としての牛に取って代わり、次第に農家から牛の姿が消えていきました。それでも、昭和29年の牛市の入場頭数は3500頭もあったようです。この年、一宮村は津山市に編入され、村営だった牛市も農協に移管されました。



現在の東一宮の市場界隈

このコーナーは歴史的文化資産のデジタルアーカイブ（古写真のデジタル化）事業の成果の中から紹介しています

**問い合わせ先** 津山郷土博物館 ☎22-4567

### 表紙について

3月19日

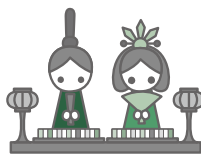
新津山洋学資料館開館

城東の町並みに溶け込み、大人も子どもも楽しく洋学について学べるように工夫された新津山洋学資料館。

津山洋学の新しい魅力を発見してください。

つ・ぶ・や・き

編集室



春の香りといえば梅の里公園の梅香。今年は新津山洋学資料館の開館や「おかやまB級グルメフェスタin津山」の開催で、洋学の香りとB級グルメの香りも強くなっています。あなたはどの香りに誘われますか？「全部！」と答える人が増えてほしいですね。（2）

特集記事の打ち合わせや取材のため、開館前の津山洋学資料館に度々おじゃましました。施設全体の雰囲気や展示空間はもとより、照明やドアノブなど細部にまでこだわりが感じられ、すごく楽しめます。皆さん、ぜひ新津山洋学資料館へ足をお運びください。（和）

「『おかやまB級グルメフェスタin津山』が楽しみ」というはがきをたくさんいただいています。せっかくの機会ですから、多くの人に全国のご当地グルメを味わっていただきたいですね。ただし、会場周辺には駐車場がありません。無料シャトルバスをご利用ください。（&）

編集・発行（毎月10日発行）

津山市総合企画部市長公室（市役所3階）〒708-8501 岡山県津山市山北520番地  
☎0868-23-2111(代) ☎0868-32-2152 Eメール kouhou@city.tsuyama.okayama.jp

☆広報つやまはホームページで閲覧できます  
<http://www.city.tsuyama.okayama.jp/>



広報つやまは、環境保護のため再生紙と大豆油インキを使用しています。読み終えた後はリサイクル（雑誌）にご協力ください

